

秋祭り実行委員会 提言書

とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオン
シップを栃木の観光の宝へ

(活動テーマ「地域活性化イベント「秋祭り」の企画運営」)

平成25年6月



公益社団法人栃木県経済同友会

平成25年6月

栃木県知事 福田 富一 様

宇都宮市長 佐藤 栄一 様

提言

とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップを

栃木の観光の宝へ

公益社団法人栃木県経済同友会

筆頭代表理事 板橋 敏雄

代表理事 小林 辰興

秋祭り実行委員会

委員長 上野 通子

副委員長 青木 勲

副委員長 宇井 肇

副委員長 高本 寛

副委員長 田村 実

副委員長 内藤 靖

目 次

I	はじめに（提言の背景）	4
II	とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップとは	4
III	熱気球の魅力とは	
	①自然との共存	4
	②幅広いファン層	5
	③スカイスポーツとしての発展性	5
IV	国内最大級の佐賀の熱気球大会 （佐賀インターナショナルバルーンフェスタ）	5
V	栃木県経済同友会のこれまでの「とちぎ熱気球 インターナショナルチャンピオンシップ」への関わり	6

提言

1.	行政主導による渋滞緩和策を実現する	9
2.	とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップを 「とちぎの有力な観光資源」と位置付け、適正な予算措置を 実現する	9
3.	大会本部、地元住民、行政の三位一体のイベントの運営体制 を実現する	9

参考資料

1.	第4回栃木県経済同友会秋祭り開催報告書（別紙1）	
2.	2012とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ公式記録 （別紙2）	
3.	栃木県経済同友会秋祭り実行委員会名簿	10

I はじめに（提言の背景）

急激な円高の進行に加えて、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故の影響により、県内観光産業はいまだにたいへん厳しい状況下にある。また、国内外の観光地間の競争も激化しており、これからは、単なる温泉などの観光資源の存在だけでは、観光客を誘致することは難しい局面を迎えている。今後、観光客を誘致するには、従来型の発想や手法から脱却し、「新たな仕掛け」「新たな観光資源の発掘」が、とりわけ重要となってきている。

そこで、毎年秋に宇都宮市道場宿緑地で開催されている「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」が、将来的にとちぎの「新たな観光資源」、「新たな観光の宝」に成長することを期待し、今回提言するものである。

II とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップとは

「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」は、国内で5戦行われる熱気球ホンダグランプリの最終戦である。ホンダグランプリ第5戦（最終戦）となる本大会の開催は6年目となる。宇都宮市道場宿のほか、茂木町のツインリンクもてぎと芳賀町役場周辺を主会場に、グランプリ唯一の国際航空連盟公認の「カテゴリー1」の大会（最もレベルの高い大会）として、国内をはじめ米国や英国などから30人以上のパイロットが出場し、熱戦が繰り広げられている。

III 熱気球の魅力とは

①自然との共存

熱気球は風に逆らって飛ぶことはできず、また風よりも早く（または遅く）移動することもできない。空気を暖めて上昇し、冷めれば降下するという極めてシンプルな飛行原理。風に乗り自然に逆らわずゆったりと飛ぶのが特徴で、あくせくとした日常を離れ、飛んでいる人だけでなく地上から見上げている人々も、いつしか自然と一体となることができるのが熱気球の魅力である。

②幅広いファン層

大会運営者による会場アンケートから、熱気球大会の来場者の年代層は非常に幅広いことがわかる。子供からお年寄りまで、家族連れを中心に友達やカップル、または一人で、のんびり空を見上げたり、写真撮影をしたり、人それぞれの楽しみ方ができるのも熱気球大会の魅力である。

③スカイスポーツとしての発展性

のんびりとした印象の熱気球であるが、競技飛行の場合は風を読み作戦を立て目的地点を目指し、飛行中も刻々と変わる風に対処する技術と判断力が要求される、見かけ以上にハードなスカイスポーツである。また、たとえ世界チャンピオンといえども、熱気球は一人ではできず、パイロットとグランドクルーが力を合わせて臨むレベルの高いチームワークが要求される。個人で行うことが多いスカイスポーツの中で、大人も子供も楽しく参加でき、今後ますます注目を集めるスポーツと評されている。

Ⅳ 国内最大級の佐賀の熱気球大会（佐賀インターナショナルバルーンフェスタ）

佐賀インターナショナルバルーンフェスタは、佐賀県佐賀市の嘉瀬川河川敷を主会場として佐賀平野中西部の広範囲で毎年秋（とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップの前の第4戦）に開催される熱気球の世界選手権である。

熱気球の競技大会としては、アジアで最大級の大会であり、毎年十数カ国の選手が参加しており、競技の熱気球の数は70～80機にもおよぶ。さらにイベントのみに参加する熱気球も30～40機あるためイベント全体では100機以上の規模になる。

熱気球競技と並んで、会場となっている嘉瀬川河川敷では熱気球の係留やライブコンサートなどの催事も行われている。このイベントは佐賀市の年間観光客数の約4分の1を占めるもので、同時期開催の「唐津くんち」の動員数を上回っている。1989年には117万人の人出を記録、競技が天候の影響を受けやすいため、

例年変動はあるが、毎年 75～95 万人の人出で推移している。※地域に与える経済効果は約 60 億円と試算されている。(※2009 年 1 月 21 日「西日本新聞」)

また、毎年イベントにあわせ飲食、土産、ゲームなどを中心に百店舗以上が出店し大変な盛況ぶりである。

栃木県経済同友会の国際化推進委員会では、平成 21 年 10 月 30 日～11 月 1 日に、「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」を視察し、イベントの盛況ぶりを目の当たりにした。特筆すべき事の一つに、「JR バルーンさが駅」が挙げられる。年々、バルーン大会への来場客が増加していたが、来場者輸送手段が自家用車等に限られていたため、来場者の利便とアクセス混雑の緩和を目指すために、1989 年にバルーンフェスタ会場を横切る JR 長崎本線上に臨時駅の設置が実現した。これは、開業当初は大会前にホーム・駅設備が設置され、大会後に完全撤去される仮設駅であったが、2002 年より、ホーム設備のみ恒久化された。大会期間外は、全ての電車・列車が通過する。なお、車での来場客には 1,000 円の駐車場料金を徴収するなど、なるべく JR を活用していただくよう工夫されている。

さらに、佐賀市や小城市の企業・公共施設に分散して設置される協力駐車場に駐車したあとシャトルバスで会場に向かう方法があり、地域をあげての渋滞対策がなされている。

V 栃木県経済同友会のこれまでの「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」への関わり

栃木県経済同友会では、平成 20～21 年度の国際化推進委員会（委員長 上野通子）で「ビジット・とちぎ！Ⅱ」をテーマに「観光立県とちぎ」の実現に向けて活動を展開してきた。その中で、先述した佐賀県で大成功をおさめている熱気球大会が、栃木県でも行われていることに着目し、国際化推進委員会をはじめとする 10 委員会等が合同で、試験的に「第 1 回栃木県経済同友会秋祭り」（平成 21 年 11 月 22 日）を開催した。当日は総勢 67 名のスタッフの協力のもと、地産地消

の観点から、とちぎの安全安心食材を使った栃木県経済同友会オリジナルの「しもつけ鍋」（大根、人参を「おにおろし」で粗くおろし、ごぼう、まいたけ、豚肉、大豆、かんぴょうなどの地元食材をふんだんに使った創作鍋）、さらには、餅つき大会を実施し、来場者に無料配布した。また、バルーンアート教室やステージイベントを実施し、会場を盛り上げることに貢献した。

そこで、平成 22～24 年の 3 年間の期間限定で、「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」をさらに盛り上げ、栃木の地に根付かせることを目的に実行部隊である「秋祭り実行委員会（委員長 上野通子）」を立ち上げた。3 年間の実行委員会では、初年度実施した、しもつけ鍋、餅つき大会、バルーンアート教室、ステージイベントを継続するとともに、毎年、委員の斬新なアイデアを取り入れイベントを成長させていった。例えば、餅つき大会で使用するもち米は、栃木県経済同友会の会員自らが地産地消を実体験するため、毎年県内各地で、春には、多くの会員で田植えを実施し、秋には稲刈りによる収穫体験を行ってきた。また、次世代の子供たちに熱気球の魅力を理解してもらい、将来にわたり子供たちの原風景として記憶され、ひいてはこの熱気球大会が将来しっかりととちぎの地に根付くことを期待し、栃木県内の小学生を対象に、絵画コンクール「熱気球のある風景」を実施した。応募作品も毎年増加している状況である。そして、この絵画コンクールの最優秀作品は、「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップの大会」および「栃木県経済同友会秋祭り」のポスターに採用し、広報活動に利用させていただいている。さらに、とちぎ未来大使で女流棋士である北尾まどか氏による子供むけ将棋教室「どうぶつしょうぎ」やポップコーンブースの追加、さらには、同友会会員自らの企業 PR や飲食販売のブースなどの出展もあり、年々イベントは拡大を続けてきた。また、ステージイベントに関しては、お笑い芸人や地元のアーティスト、地元の学生等の出演等集客のための趣向を凝らした演出をした結果、毎年、ステージ前には溢れんばかりの観客で埋め尽くされている。

また、栃木県経済同友会がとちぎの熱気球大会を盛り上げてきた3年間の集大成として、栃木県経済同友会の会員企業を中心に寄付を募り、本年、栃木県経済同友会オリジナルのバルーン（熱気球）を製作し、平成24年11月24日に開催された「2012 とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」の大会においてイベントの係留用のバルーンとして、大勢の観衆の前に披露された。今後は、行政におかれても、公益性の高いイベント等で利活用いただければ幸いである。次に、栃木県経済同友会が、本大会にコミットしてからの主だったデータをお示ししたい。

	第1回秋祭り 平成21年11月22日	第2回秋祭り 平成22年11月21日	第3回秋祭り 平成23年11月26日	第4回秋祭り 平成24年11月24日
秋祭り開催 日の動員数	約7万人	約9万人 (前年比2万人増)	約10万人 (前年比1万人増)	約11万人 (前年比1万人増)
大会5日間 の動員数	約12万人	約13万人 (前年比1万人増)	約15万人 (前年比2万人増)	約17万人 (前年比2万人増)
絵画コンク ール応募数	—	20作品	71作品	449作品

先述した佐賀県の熱気球大会は30年以上の歴史があり、大会スタッフ、地元ボランティアスタッフ、行政等が三位一体で大会を成長させ、毎年100万人に迫る観客を動員し、その経済効果は60億円ともいわれている。一方、毎年、宇都宮の道場宿緑地を中心に行われる「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」の開催は、まだ6回目にもかかわらず、17万人もの動員に成功することができ、まだまだ伸びしろの十分あるイベントといえる。そこで、栃木県経済同友会として、「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」が、将来にわたり、「とちぎの観光の宝」に成長することを期待し、次の具体的な3つの提言をさせていただく次第である。

提 言

1. 行政主導による渋滞緩和策を実現する

とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップは、年々着実に成長をしており、実際に大会イベント当日の道場宿近辺の交通渋滞が問題になり始めている。そこで、先述した佐賀市のように、企業・公共施設に分散して設置される協力駐車場に駐車したあとシャトルバスで会場に向かわせる方法等により、行政主導の渋滞緩和策の実現を提言する。

2. とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップを「とちぎの有力な観光資源」と位置付け、適正な予算措置を実現する

先述した「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」では、億円単位での行政による予算措置がとられている。現在、成長を続けている「とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ」を新たな「とちぎの観光の宝」とすべく可能な限りの予算を措置されたい。

3. 大会本部、地元住民、行政の三位一体のイベント運営体制を実現する

これまで、4年にわたり、栃木県経済同友会が実施してきた側面支援の活動は、地元の清原地区の住民等に協力要請をし、引き継ぐ予定である。来年度以降は、渋滞緩和策、イベントの安全運営管理等大会本部と地元住民、行政等が一体となった運営体制を構築すべきである。

参考資料

1. 第4回栃木県経済同友会秋祭り開催報告書(別紙1)

2. 2012とちぎ熱気球インターナショナルチャンピオンシップ公式記録(別紙2)

3. 栃木県経済同友会秋祭り実行委員会名簿

秋祭り実行委員会名簿				
行	職名	氏名	役職	企業名
1	委員長	上野 通子	センター長	文星国際交流センター
2	副委員長	青木 勲	代表取締役社長	北関東総合警備保障(株)
3	副委員長	宇井 肇	代表取締役社長	日光総業(株)
4	副委員長	高本 寛	支店長	(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ栃木支店
5	副委員長	田村 実	代表取締役社長	(株)スマイルスタッフ
6	副委員長	内藤 靖	代表取締役	(株)テラクリエーション
7	オブザーバー	板橋 敏雄	取締役会長	(株)板通
8	オブザーバー	小林 辰興	代表取締役会長	(株)栃木銀行
9		阿久津 廣行	代表取締役	(株)工藤設計
10		安藤 寛樹	代表取締役	(株)安藤設計
11		飯村 慎一	代表取締役社長	光陽電気工事(株)
12		石川 英一	代表取締役	宇都宮精機(株)
13		市田 侑三	代表取締役社長	春秋ビジネス(株)
14		上野 憲示	学長	文星芸術大学
15		上野 孝子	学長	宇都宮文星短期大学
16		生沼 均	代表取締役	(有)大地
17		大西 盛明	代表取締役	(株)オニックスジャパン
18		岡 孝夫	代表取締役	(株)アクティブホンダ
19		門田見 岳史	支店長	(株)JTB関東 法人営業宇都宮支店
20		木下 恒彦	支店長	パナソニック(株)関越支店
21		小林 清美	代表取締役	(株)フローリー・パッツ
22		小玉 文男	代表取締役	小玉産業(株)
23		斎藤 正治	代表取締役会長	(株)ダイサン
24		斎藤 英樹	代表取締役社長	邦和理工(株)
25		鈴木 忠	専務理事	(医)慈全会
26		黒澤 良二	理事栃木工場長	日産自動車(株)栃木工場
27		高柳 實	代表取締役社長	東野タクシー(株)
28		高山 實	代表取締役	(株)太陽警備保障

29		三和 正寿	支店長	野村證券(株)宇都宮支店
30		仲田 俊夫	代表取締役	仲田総業株式会社
31		中村 雄三	代表取締役	(株)アクティチャレンジ
32		中山 康	支店長	日興コーディアル証券(株)宇都宮支店
33		野田 和郎	代表取締役	(株)ハヤブサドットコム
34		早川 敏彦	専務取締役	(株)早川工業
35		東 慶一郎	支店長	大和証券(株)宇都宮支店
36		膝附 政義	代表取締役社長	(株)雅秀殿総本店
37		伏木 昌人	理事長	栃木信用金庫
38		堀江 裕	執行役	(株)足利銀行
39		益子 博美	取締役ジェネラル マネージャー	(株)花のギフト社
40		水沼 孝夫	代表取締役	(株)インターセック
41		村上 龍也	代表取締役	(株)村上
42		森戸 義美	栃木支店長	(株)関電工栃木支店
44		吉原 正博	代表取締役社長	(株)カナメ